

編 集 後 記

COVID-19 パンデミックに対して緊急事態宣言が発令されました。日本神経学会関係者の中には、最前線で直接 COVID-19 患者の治療に当たっている会員もいらっしゃると思います。どうかご無事でいらっしゃいますよう心からお祈りしています。COVID-19 患者を直接診ることはなくともその後方支援をしている会員も、様々なリソースが限られていく中でこれまでの医療水準を維持すべく努力されている会員も、どうかご自身やご家族のご健康に気を付けて頂ければと思います。この編集後記が出版される頃には少しでも状況が改善していることを願うばかりですが、全ての対応が後手後手に回っている現状を鑑みるとそのようなことは望み難いと感じざるを得ません。

今年 1 月 17 日に中国で 295 名の患者で新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染が確認されてから (European Centre for Disease Prevention and Control. "Risk assessment: Outbreak of acute respiratory syndrome associated with a novel coronavirus, Wuhan, China; first update" <https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/risk-assessment-outbreak-acute-respiratory-syndrome-associated-novel-coronavirus/>), たった 4 ヶ月で 1 万倍の 249 万人 (4 月 21 日現在, <https://www.worldometers.info/coronavirus/>) にまで感染者数が膨れ上がりました。驚くべき速さです。しかも、実際の患者数はこれよりも遙かに多いはずで、日本では、患者数は、4 月 21 日現在 11,135 名となっていますが、もちろん誰もこれが正確な患者数を反映しているとは思っていません。

感染症対策では先手先手を打つことと、意思決定の早さが重要な点もありますが、後手後手の対策を出してくる日本の現状は目を覆うばかりです。私自身が交流の深い東アジア諸国と比較して、極めて対策が遅れています。私はこのように状況が悪化する前の 2 月下旬に、COVID-19 対策で最も成功しているといわれる台湾を訪問する機会がありました。客員教授をしている高雄醫學大學では、病院への入場制限と全入場者の体温測定・手指消毒を行うとともに、1 時間毎に院内のエレベーター等のボタ

ンや手すりの消毒を行っていました。また、レストランやホテルでも入場者の体温測定・手指消毒が実施されていました。テレビでは頻回に台湾 CDC や政府からのメッセージが放映されており、市民から政治家まで感染症に対する意識が高いと感じました。また、訪問したまさにその日に、台湾の全医療関係者の 6 月末海外渡航禁止宣言が出されました。2 月の日本と比べ、台湾よりも患者数が多かったにも拘わらず、震災後の復興時のようにそれほど心配しなくて良いといったようなメッセージを発する政治家や著名人が多数いました。現在、緊急事態宣言が出されて深刻な状況になっている筈の東京でさえ、2 ヶ月前の台湾の対策に追いついていないのが現状です。中国の状況に関しては、武漢で最初の大規模感染 南京在住のドキュメンタリー監督竹内亮氏が YouTube 上で公開している動画「人口 850 万 感染者ゼロの都市 中国南京」で、中国・南京での徹底した感染症対策を見ることができます。監視社会ならではの方策も確かに多いですが、この動画に出てくる外食店の客席数制限などは、日本で行われるべき対策の一つと考えます。また、新興宗教関係者を中心に患者数が大幅に増加し、当初は中国に続くコロナ大国であった韓国も PCR 検査を積極的に行うことで、日本での新規患者数が日々記録更新をしていく中、むしろ患者数は減少し、ついに患者数・死亡者数ともに日本が追い越してしまいました。

もちろん政治状況も異なりますし、人権に関する意識も異なります。また、これらの国々では SARS や MERS を経験していたことも大きいと思います。それにしても日本の対策は遅くて緩すぎると言わざるを得ません。これらの国々に共通するのは、CDC を持っており、専門家が責任を持って迅速に対策を講ずるシステムを持っていることと日本より遙かに早く厳しい措置を講じていることです。是非日本神経学会員の皆様におかれましては、一段も二段も高い意識でこの危機感を乗り越えて頂きたいと思います。

(西野 一三)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員 (幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

〔臨床神経学〕 第60巻 第5号 2020年5月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス: <http://www.neurology-jp.org/>